

課題解決型研究プログラム 統合研究プログラム

委員会の主要意見

現状についての評価・質問等

- モデルによるアプローチの限界や予測・評価結果の定量的な検証については課題があると思われるが、世界全体からアジア、そして我が国の市町村までを対象として持続可能な社会実現のための統合的な研究に取り組むという多面的な研究プログラムであると高く評価する。
- IPCC 特別報告書や Future Earth への学術的貢献は論文の被引用数等で評価できる。一方、研究のSDGs への貢献をどのように評価するのか。

今後への期待など

- 今後は得られた成果をもとに、環境問題の解決と経済社会発展をどのように両立させていくべきかについて国民に対してわかりやすく説明し、意識改革を促して欲しい。
- 地域エネルギー、交通、産業などの部門間連携や国際的な連携もさらに強化して研究を推進することを期待する。
- 道徳性評価は重要で、成果を期待する。人的資本の向上という観点で関係する環境学習を評価の対象とすることも検討されたい。

主要意見に対する国環研の考え方

- ①モデルを用いた予測・評価については、モデル比較評価研究への積極的な参加等を通じて、その手法の精度等の把握・管理に努めます。
- ②SDGs への貢献については、国内での内閣府の自治体 SDGs 等の政策検討への反映のチャンスを探る一方で、国際的には TWI2050 (The World in 2050) やその他の国際研究コーディネーションへの成果提供を目指します。
- ③持続可能な社会の実現に向けて、一般国民へのわかりやすい説明や他国への波及は必須と考えていますので、研究とあわせて取り組んでいきたいと思えます。
- ④さらなる研究推進のために、人材育成活動と連動する形で特にインドネシアの関係機関との連携促進を目指します。また、アジア諸国の関係機関との連携にも引き続き取り組みます。国内では民間企業との連携でシミュレーションシステムの実用化を進めるなどのコンソーシアムの検討も進めます。
- ⑤今後の展開として、環境学習や環境教育に役立つ知見を提示すべく努力します。